

大阪湾漁場環境速報

平成30年11月7日発行
兵庫のり研究所

窒素は全域において6 $\mu\text{g-at/L}$ 以上となっており、各ノリ漁場周辺での栄養塩は十分量で推移しています。湾奥部やその周辺海域の一部でスケルトネマやギナルディアがやや多く見られましたが、それ以外の海域では珪藻は確認される程度と少ない状況でした。

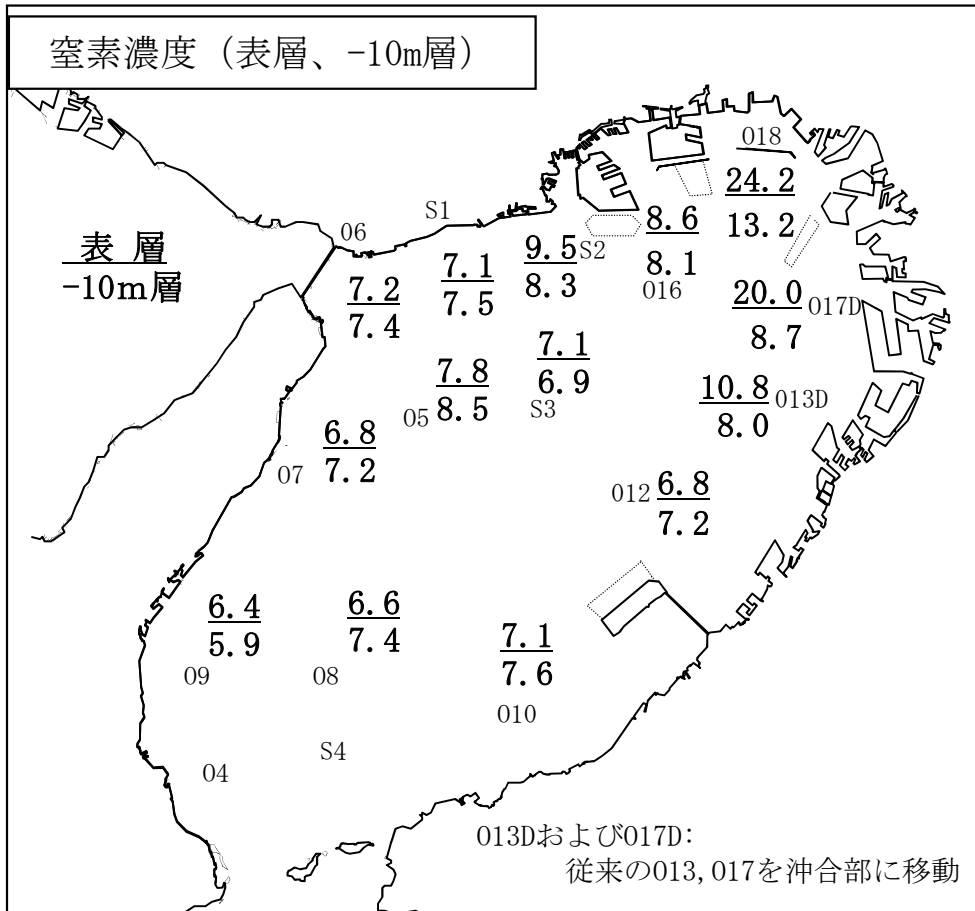
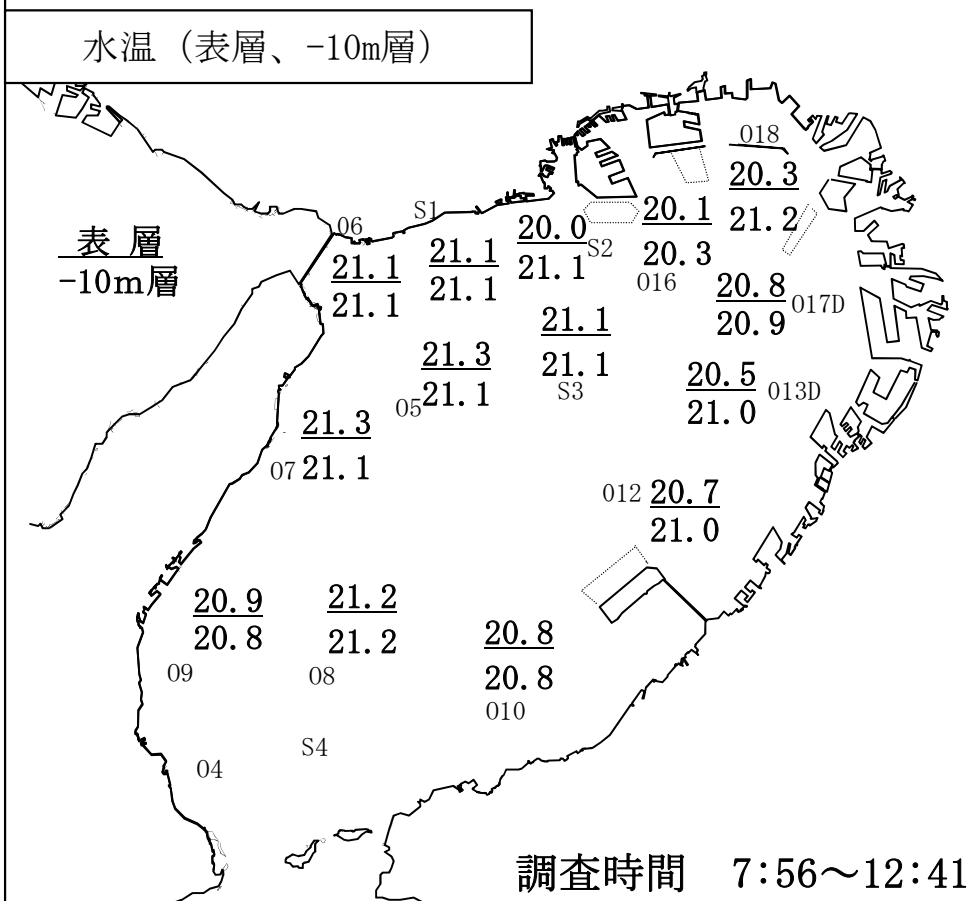
(水温) 表層は湾内20~21℃台で、平均20.9℃。平年比0.2℃低い。-10m層は平均21.0℃(平年比-0.4℃)。

(塩分) 表層平均31.62psu(平年 31.45)。-10m層平均31.87psu(平年 32.14)。

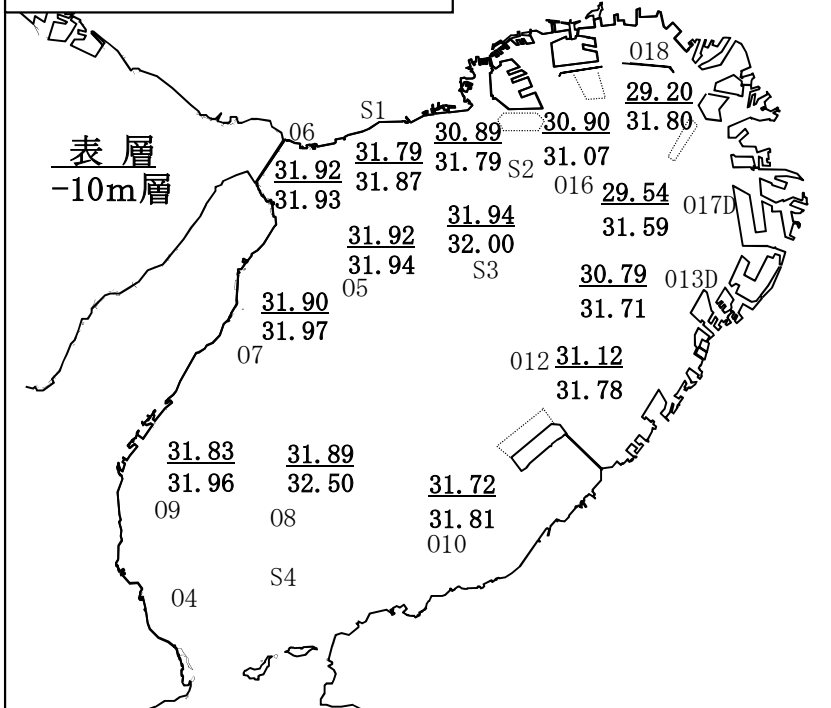
(栄養塩、他) 表層の窒素は平均7.4 $\mu\text{g-at/L}$ 、リンは平均0.56 $\mu\text{g-at/L}$ 。窒素は平年より少し高くリンは平年並。-10m層(平均)は、窒素7.4 $\mu\text{g-at/L}$ 、リン0.59 $\mu\text{g-at/L}$ 。湾奥では小型珪藻スケルトネマが、大阪府沿岸の堺沖から岸和田にかけては連鎖状で肉眼視できるギナルディアがそれぞれ優占種としてやや多く発生していた。赤潮として確認されてはならず、今のところ特に問題となる発生量ではない状況にあり、窒素・リンとも大阪湾全域において概ね平年並の値となっている。

上段 (今回値)	平成30年11月6日調査
中段 (昨年値)	平成29年11月2日調査
下段 (平年値)	11月上旬

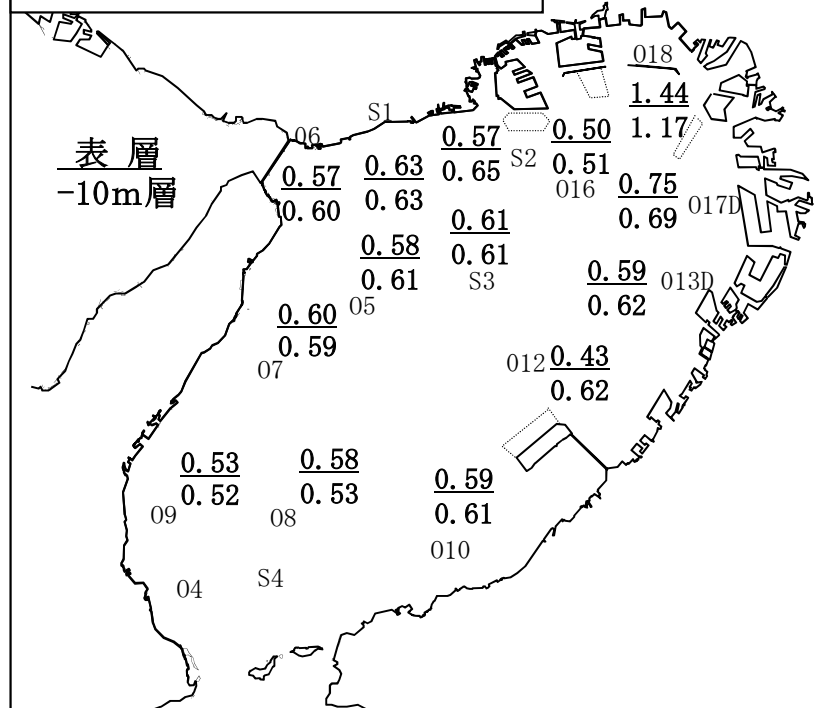
調査地点	水温 (°C)	塩分 (psu)	三態窒素 ($\mu\text{g-at/L}$)	磷酸 ($\mu\text{g-at/L}$)
04	21.7	32.64	4.7	0.47
	21.3	31.92	7.8	0.58
05	20.7	30.38	11.7	0.68
	21.6	31.94	5.7	0.57
06	21.1	31.92	7.2	0.57
	18.3	24.63	17.9	0.77
07	21.1	31.23	6.6	0.58
	21.3	31.90	6.8	0.60
08	20.1	30.49	11.0	2.72
	21.6	32.01	5.9	0.83
09	21.2	31.89	6.6	0.58
	19.5	29.93	11.3	0.72
010	21.6	32.23	5.3	0.51
	20.9	31.83	6.4	0.53
012	19.8	30.08	9.2	0.64
	21.6	32.22	5.2	0.51
013D	20.8	31.72	7.1	0.59
	19.2	29.46	12.0	0.72
016	20.8	31.68	5.4	0.50
	20.7	31.12	6.8	0.43
017D	19.2	28.78	10.5	0.52
	20.7	31.34	5.2	0.46
018	20.5	30.79	10.8	0.59
	20.0	28.94	13.2	0.44
S1	20.6	31.05	5.3	0.36
	20.1	30.90	8.6	0.50
S2	18.7	19.96	30.9	1.34
	20.0	29.28	12.6	0.65
S3	20.8	29.54	20.0	0.75
	19.0	22.30	29.8	1.23
S4	20.3	28.58	24.8	0.95
	20.3	29.20	24.2	1.44
013Dおよび017D:	17.3	13.34	27.8	1.09
	19.8	26.80	27.8	1.12
従来の013, 017を沖合部に移動	21.1	31.79	7.1	0.63
	18.2	21.46	20.6	0.87
013Dおよび017D:	20.6	30.48	7.6	0.54
	20.0	30.89	9.5	0.57
従来の013, 017を沖合部に移動	18.3	19.34	24.4	1.10
	20.1	29.64	9.4	0.56
013Dおよび017D:	21.1	31.94	7.1	0.61
	18.7	27.12	13.9	0.74
従来の013, 017を沖合部に移動	21.3	31.56	5.9	0.56
	21.7	32.64	4.6	0.48



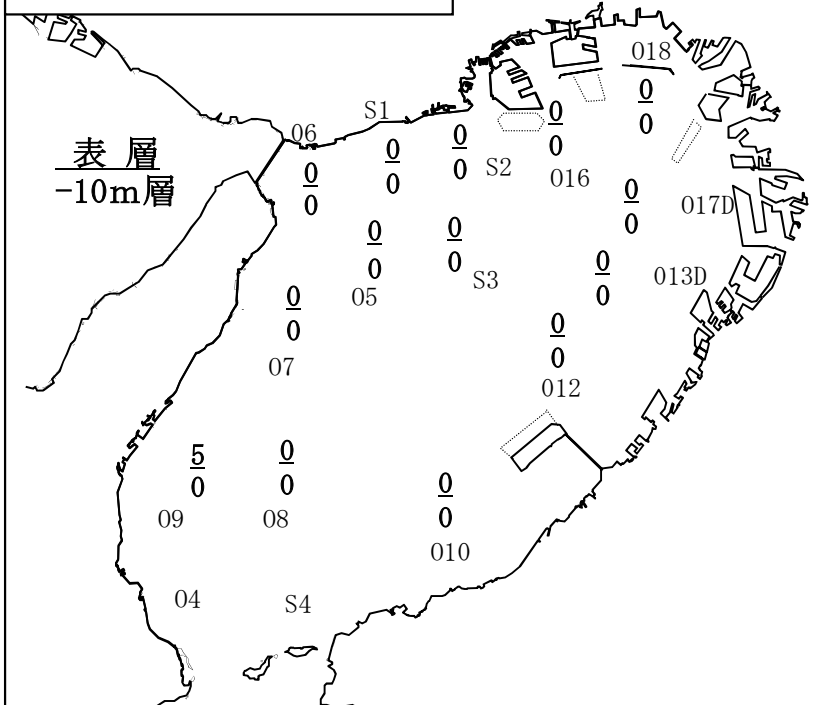
塩分 (表層、-10m層)



リン濃度 (表層、-10m層)



コシノディスカス (細胞/L)



スケルトネマ (細胞/ml)

